



図1 出口雄樹、岩泉慧 二人展「Reflection」 展示風景 I @UNPEL GALLERY 東京



図4 Delighting One 出口雄樹

スケートボード、膠、胡粉、スプレーペイント、ピグメント、黒色無双

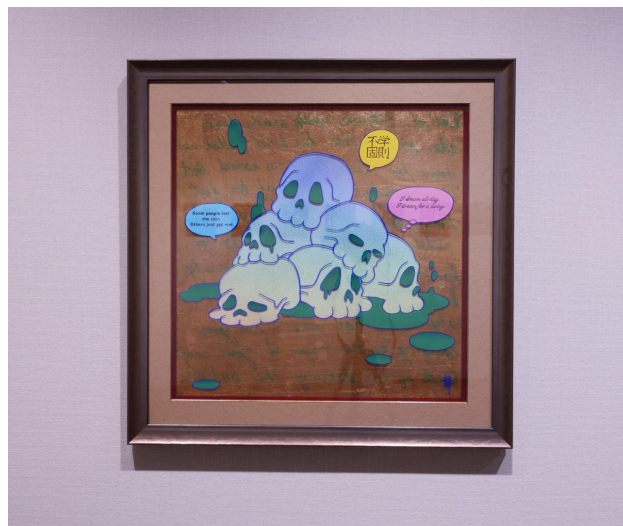


図2 Melting Skulls 出口雄樹

アクリル板 膠 胡粉 スプレーペイント ピグメント 箔

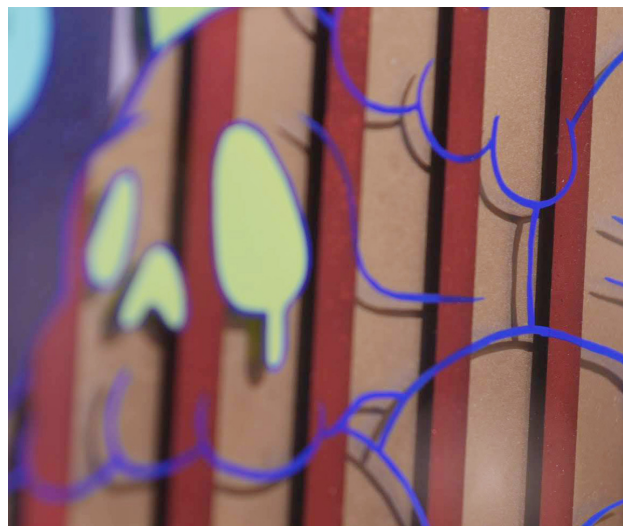


図3 Melting Skulls 部分 出口雄樹

アクリル板とエフェクト顔料の反射の違いを活かした作品





図5 展示風景Ⅱ

2022年度の特別制作研究助成の表現研究の成果として行った展示、「Reflection」の展示風景と作品写真です。

本表現研究は今のように電気による光源ない光に限られた時代、日本美術では「光」をどのように室内に取り込み、活かすかは大きな課題でありました。その意味において襖絵や掛け軸などは空間も含めて一つの作品でした。それらの空間演出を支えたのは、質感表現が豊かな日本画の素材です。岩絵具や金箔や銀箔、雲母、三椋紙、雁皮紙、絹などは「光の反射」を引き起こす素材の代表格でした。現代では、金属やアクリル版、顔料など様々な反射系の素材の開発が進んでいます。そこで、本展覧会では、日本画で一般的ではない反射系素材を含む現代の新素材の可能性を追求し、それらを用いた作品を展開しました。出口はアクリル板の透過性を生かしたレイヤー表現でアクリル板の反射とエフェクト顔料の反射を匠に使い分けた表現を行い、岩泉は反射する素材そのものの特性をコンセプトにし、コンセプトチャルな表現を試みました。このように両者共通素材を用いながら多角的なアプローチで表現を試みた表現研究です。

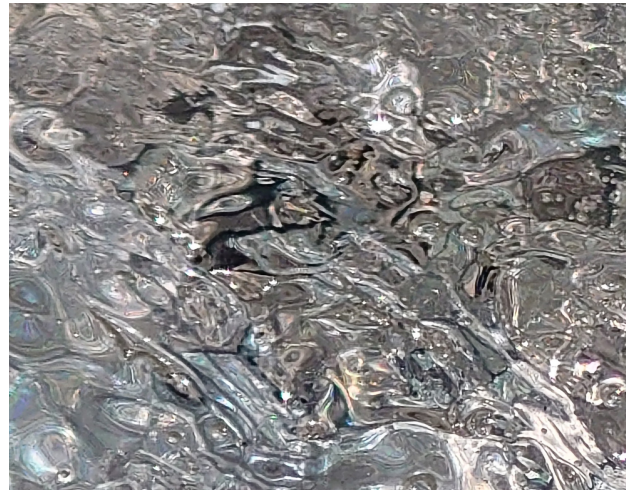


図6 Shape of water I α 部分拡大

凹凸のあるモザイク加工のアクリル板にアクリル樹脂を流し込み、透過性のコントロールを行い、大気の流れを表現した動的な作品

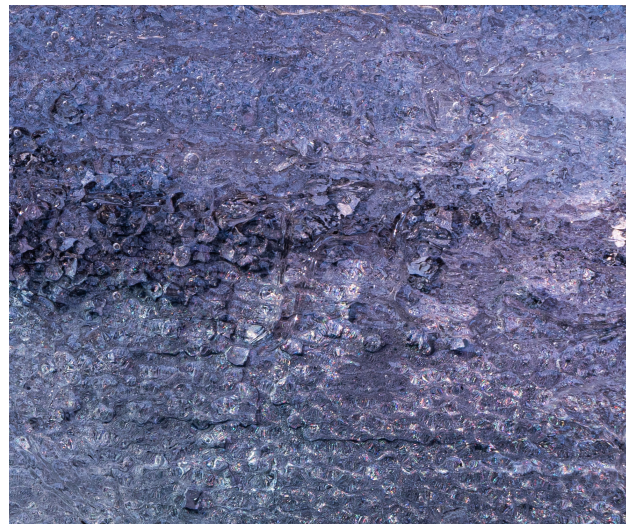


図7 Shape of water I α 一部

パネルにキャンパス、アクリル板 エフェクト顔料 クリスタルメディウム